

イデックスオイルレポート ~For a week~

2023/2/24作成 (株)新出光

【概況】<米国市場利上げ長期化~ロシア産減産表明>

●17日、今週発表された米経済指標がインフレ圧力の根強さや労働市場の堅調さを改めて示す内容だったことを受け、FRBの複数の高官は利上げ継続に積極的な姿勢を改めて示しました。クレーブランド連邦準備銀行のメスター総裁は16日、米経済の動向次第では利上げ幅を0.25%から再び拡大する可能性がある」と表明。セントルイス連銀のブラード総裁も0.5%の利上げ実施の可能性に対して、「排除しない」と述べました。市場では利上げ長期化で金利が一段と上昇すれば、ドル高基調が強まるとの警戒感が台頭し、ドルが主要通貨に対して上伸すれば、ドル建て商品である原油の割高感が意識され相場は76.34ドルへ下落しました。

●20日、大統領記念日のため休場。

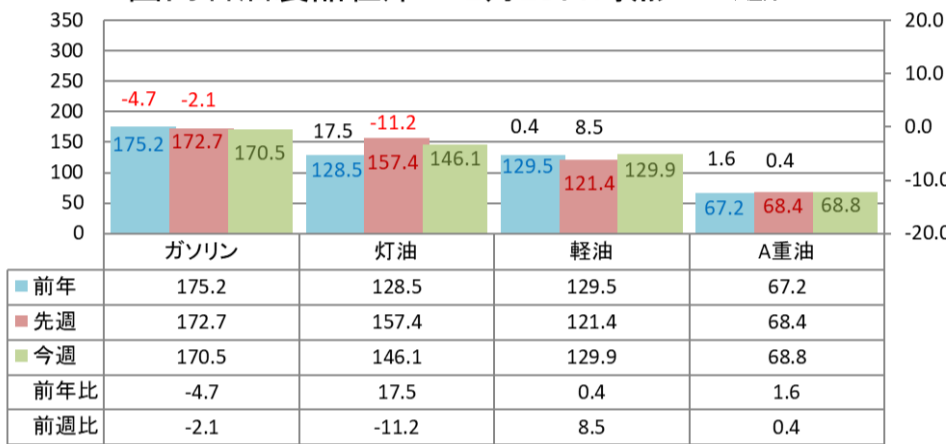
●21日、S&Pグローバルが発表した2月の製造業とサービス業を合わせた米購買担当者景況指数(PMI)速報値は総合で50.2となり、前月確報値の46.8から上昇。8カ月ぶりの高水準をつけ、市場予想も上回りました。堅調な内容となったものの、現状の景気動向よりもFRBによる利上げ長期化への影響に関心が集まり利上げが長引き景気が減速すればエネルギー需要の減退を招くとの連想につながり、相場は一転してマイナス圏に沈みました。米株式が大幅安となっていることも原油相場を下押しし相場は76.16ドルへ続落しました。

●22日、FRBは1月31日~2月1日に開いた米連邦公開市場委員会(FOMC)で、利上げ幅を0.25%と前回の0.5%から縮小。ただ、その後に公表された1月の米消費者物価指数(CPI)など一連の米経済指標がインフレの高止まりと経済の堅調さを示す内容だったことを受け、市場では利上げが長期化するとの見方が改めて強まっています。この日はFOMC議事要旨の公表を前にした警戒感で、取引開始直後から売りが先行し相場は73.95ドルへ続落しました。

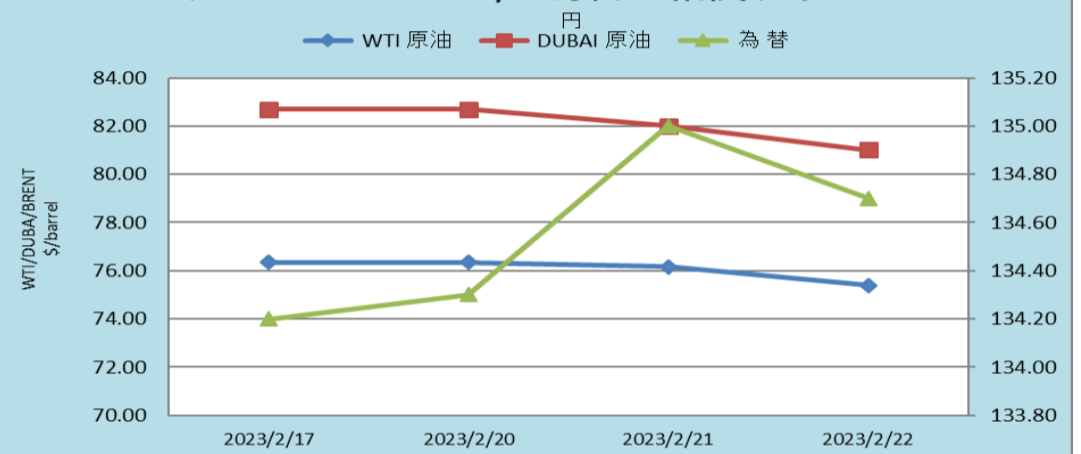
●23日、ロイター通信は、ロシアが欧州連合(EU)などによる原油と石油製品輸出価格への上限設定措置に対抗し、ロシア西部の港からの3月の原油輸出を前月比で最大25%削減する計画だと報じた。ロシアは先に、日量50万バレルの減産も表明しており、供給不足への懸念が台頭した。下落基調が続いていた後を受けて安値拾いの買いも入り相場は75.39ドルへ反発しました。

2月24日 16:00現在 WTI原油 76.11ドル 為替 1ドル 135.19円

国内石油製品在庫 2月18日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 関連グラフ



品名	次回元売変動予測	
	3/2~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.2~-0.7
灯油	→	-0.2~-0.7
軽油	→	-0.2~-0.7
A重油	→	-0.2~-0.7
LSA	→	-0.2~-0.7

※原油コスト「-2.0~-2.5円」
 ※激変緩和補助金「-16.9円」前週比+1.8
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<各社販売枠消化を意識し整理売り拡がる>

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+1.5円」、補助金は、「-18.7円」、都合「+0.1円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの20日時点の小売価格平均は167.4円となっております。

《2月25日以降》次回の元売り改定は、原油コストはサウジ調整-1.2円込みで、「-2.0~-2.5円」、激変緩和補助金は「-16.9円」の見込みで、都合「▲0.2~▲0.7円」の改定の予測となっています。市況をリードしていた市況連動玉を持つ業者は、あらかたの販売枠の消化が進んだ為市況が崩れる状況はないと思われます。但し口銭の悪化は厳しい状況が続いています。次週の改定にサウジ調整金▲1.2円の計上予定であります、エネ庁の補助金が減少する為都合▲0.5円前後と予測しています。

【次世代エネルギー】<神戸市 下水処理でバイオガス「発電の燃料にも」>

神戸市は下水処理の過程で発生するバイオガスをエネルギーとして有効に活用しようと、こうしたガスを燃料に発電し、その電力で水素を作る取り組みを始めることになりました。

下水処理では、汚泥処理の過程でメタンを含むバイオガスが発生していて、神戸市はこれまで下水処理場で発生したガスを精製して路線バスの燃料などとして販売してきました。市は、さらに有効活用を進めようと、新たに令和6年から東灘区の下水処理場で民間事業者と協力してガスを発電の燃料として使用することになりました。こうしたガスを燃料に発電される電力量は年間およそ870万キロワットアワーと、一般家庭のおよそ2400世帯分に相当するということで、電力会社に販売する予定です。また、この電力を使って水を電気分解し、燃やしても二酸化炭素を排出しない「水素」を作ることにしていて、市長が乗る燃料電池車の燃料として活用することになっています。市によりますとこうした取り組みを通じて削減できる二酸化炭素の量は年間で3100トンと、これまでの2倍以上に増える見通しだということです。

神戸市の久元市長は「これだけ下水処理場で新たな取り組みを行う自治体はほかに例がなく、神戸市が下水と資源活用のトップランナーとしての役割をしっかりと果たしていきたい」と話しています。

[出典]

① <https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20230109/2000069762.html>